

テーマ	標準原価計算（Ⅲ）
-----	-----------

- 次の資料にもとづき、製造間接費差異を計算し、差異分析をなさい。
- 製品 1 個あたりの標準製造間接費は次のとおりである。なお、製造間接費は直接作業時間を基準に配賦する。

標準製造間接費 : @¥60 × 2 時間 = ¥120

- 製造間接費の予算額は次のとおりである。

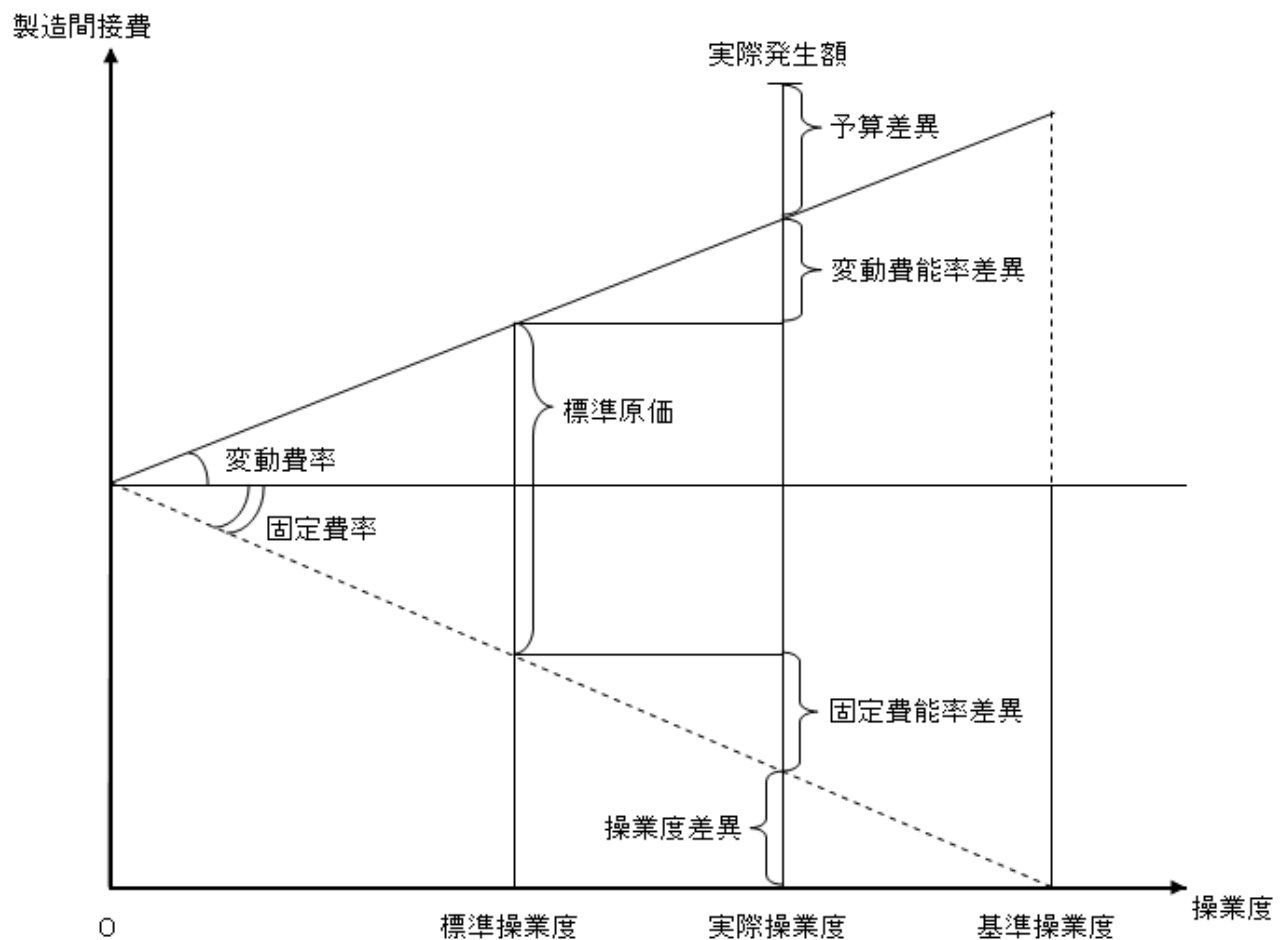
製造間接費予算額 : ¥30,000 (変動費率 @¥25 、 固定費予算額 ¥17,500)

基準操業度 : 500 時間

- 当月の生産データは次のとおりである。

月初仕掛品	0 個
当月投入	250 個
合計	250 個
月末仕掛品	50 個 (40%)
完成品	200 個

- 当月の製造間接費の実際発生額は、¥28,000、直接作業時間は 430 時間である。



- | | |
|----------------|--------------------|
| ① 製造間接費差異（総差異） | 標準製造間接費－製造間接費実際発生額 |
| ② 予算差異 | 予算許容額－製造間接費実際発生額 |
| ③ 変動費能率差異 | 変動費率×（標準操業度－実際操業度） |
| ④ 固定費能率差異 | 固定費率×（標準操業度－実際操業度） |
| ⑤ 操業度差異 | 固定費率×（実際操業度－基準操業度） |

テーマ	標準原価計算（Ⅲ）
-----	-----------

- 次の資料にもとづいて、シュラッター図の空欄に数値を入れなさい。不利差異は（△）で示しなさい。

〔資料〕

(1) 原価標準

製造間接費… 12 時間 × @¥50 = ¥600

(2) 生産データ

当月完成量 210 個

月末仕掛品 30 個（加工進捗度 40%）

月初仕掛品 40 個（加工進捗度 60%）

※ 材料は工程始点で投入した。

(3) 実際原価データ

実際発生額 ¥125,000

実際操業度 2,300 時間

